

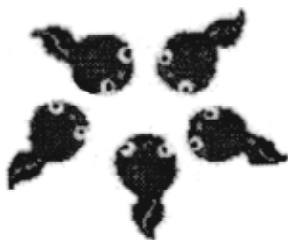
ニューズレター 2020 年度第 2 号

日本音楽表現学会 2020 年 11 月 30 日発行

目 次

【巻頭言】琵琶湖のほitoriから	杉江 淑子	2
【ペガサス大会】研究発表の誌上発表について	澤田まゆみ	3
コロナ禍での誌上発表を振り返って	山本 奈央	3
コロナの季節での音楽	小島 エマ	4
コロナ禍がもたらした「LIVE・生」への思い	新保 江美	5
【海外便り】音楽と Black Lives Matter	高沢 学	6
新入会員紹介		8
日本音楽表現学会後援コンサート等情報		9
事務局からの重要なお知らせとお願い		11
第 19 回（天翔るペガサス）大会発表募集		14
日本音楽表現学会第 19 回大会のご案内		16
2020 年度役員・委員等一覧		16
編集後記		16

日本音楽表現学会



所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：同上

Tel. 075-462-1388

E-mail : music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費：5,000 円

振込先：郵便振込口座 01370=6=78225 日本音楽表現学会

琵琶湖のほとりから

杉江 淑子（音楽教育・音楽社会学／事務局担当理事）

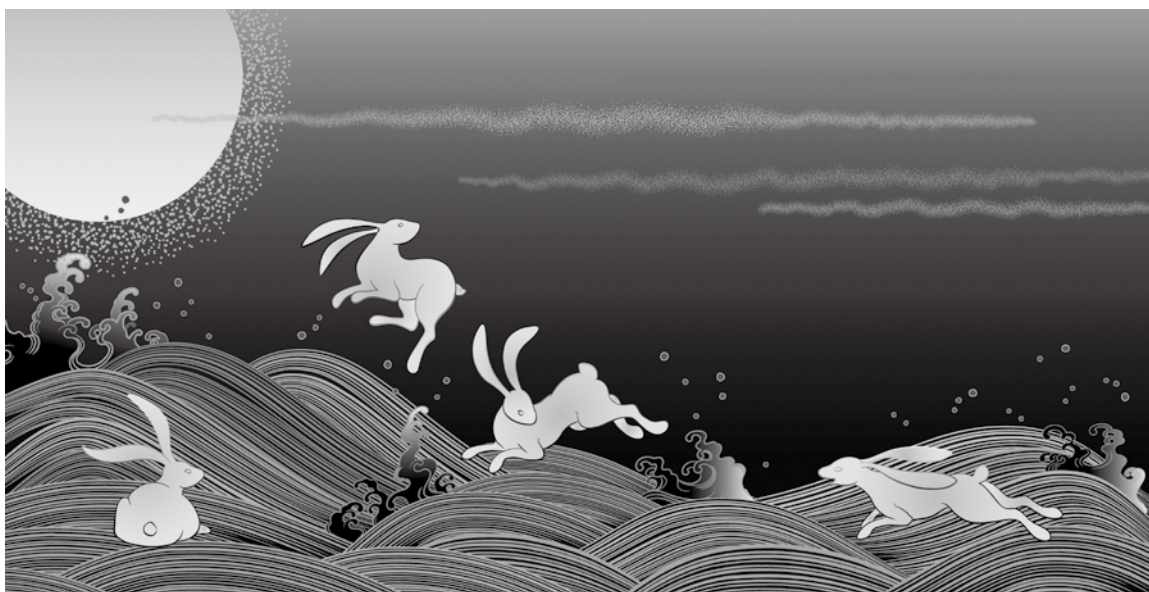
琵琶湖のほとりは木の葉がすっかり色づきました。湖岸の小径に舞い落ちた真っ赤な桜の葉や楓の葉をカサコソと踏みしめながら歩くのが楽しい季節です。さて、2020年が暮れようとしています。今年は、私たちの日常が思いもかけず一変した年でした。音楽表現・音楽創造の活動においても、かつて遭遇したことのない状況に見舞われました。そして、音楽がいかに社会や経済とつながった営みであることかを痛感させられた年でもありました。多くの様々な音楽活動が、新型コロナウイルス感染症の拡大により、中止あるいは活動形態の大幅な変更を余儀なくされました。「不要不急」という、いかにも調法で冷やかな四文字熟語の下に断念せざるをえなかった音楽活動は、いかほどに上るでしょうか。その一つひとつにおいて、準備に精魂を傾けてきた方々の無念とそうした音楽を享受できることを楽しみに日々の生活を営んでいた観客・聴衆の落胆があったことと想像します。

かくいう私も落胆した1人でした。びわ湖ホール（滋賀県立芸術劇場）が2016年度から取り組み、毎年一作ずつ4年間をかけて全作公演を目指してきたワーグナーの《ニーベルングの指輪》四部作（びわ湖リング）のいよいよ完結編〈神々の黄昏〉が、2020年の3月7日・8日に上演されることになっていたのです。〈ラインの黄金〉〈ワルキューレ〉〈ジークフリート〉と、毎年公演に足を運んできた私は、昨年の公演直後から1年後を期待して心を躍らせていたものでした。2月後半から感染の拡大が勢いを増し、さまざまな“自粛”が求められるなかで、「上演は、やはり無理かもしれない」「感染拡大を防ぐためには仕方がない」と自身を納得させつつも、「それでも、なんとかならないのだろうか」という思いでいっぱいでした。一聴衆の私ですらこうなのですから、上演に向けて音楽を創り込み、演出、舞台美術等の制作に取り組んできた方々の落胆はいかほどかと考えるだけで、胸がぎりぎりするような痛みを覚えました。公演を1年延期するというようなことは、まず考えられません。もう一度…とは、それまで準備に費された年月をもう一度最初から繰り返せというようなものでしょう。こうした無情な事態のなかで、びわ湖ホールは、無観客上演・オンライン配信の決断を下しました。ユーチューブでの配信は海外も含め41万人が視聴したと言われます。無観客公演はBlu-ray Discとして発売もされました。前例がない中、短期間でこの決断は見事であったと思います。聴衆として、創設時からびわ湖ホールの姿を身近に見てきた私は、本当に頼もしく嬉しく感じました。

振り返れば、ちょうど10年前の2010年11月末発行の本学会ニューズレターの巻頭言にて、私は、手の届くところにライブの音楽があることの喜び、幸福、愉悦ということについて記述しました。その拙文において、当時、開館12年目を迎えたびわ湖ホールにて初めて開催された「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」の様子を紹介し、「質の高さと親近感を兼ね備えたこうした催しが今後、自前のものとして日本に根付いていけば…」との思いを綴りました。その後、ラ・フォル・ジュルネは、びわ湖ホールでは2017年まで8年間継続して開催され、4～5月のゴールデンウィークの大きな楽しみの一つでした。若き音楽家たちの斬新で質の高いアンサンブルに出会って喜びを感じたり、ライブで耳にすることの少ない作品の演奏に出会えたりする機会も多く、毎年、この時期を楽しみにしていましたので、2017年が最後の開催と知ったときには、たいへん気落ちしたものでした。この決定には、自治体が音楽文化事業に費やすことのできる公的資金とそこから生み出される経済的価値・社会的価値についての評価のせめぎ合いもあったのではないかと推察されるところです。ラ・フォル・ジュルネは終わりましたが、2018年からはその精神を受け継ぎ、そこにびわ湖ホールらしさを加えた〈びわ湖クラシック音楽祭：近江の春〉が開始されることとなりました。まさに「自前のもの」としてのスタートが新たに切られたと言えるでしょう。2020年の〈びわ湖クラシック音楽祭：近江の春〉はコロナ禍で中止となりましたが、これまでも逆境にめげずに進化し続けてきたホールです。今後もきっと、新たな挑戦も交えて、人々に音楽の喜びを提供し続けてくれるに違いありません。

コロナ禍の下、びわ湖ホール芸術監督の沼尻竜典氏は、“音楽の灯を絶やしてしまっってはいけない”と新聞誌上で記しています。また、ドイツのグリュッター文化相は、3月にいち早く文化施設や芸術家への支援のための声明を出し、

「芸術文化は良き時代においてのみ享受される贅沢品などではない。…平時だけのものではなく、生命維持に必要不可欠の存在である」と述べました。もちろん、感染症の拡大を防がねばならないことは言うまでもありません。しかし、音楽は決して「不要不急」のものではないことを、音楽表現や音楽教育の実践・研究を目的とする本学会会員の一人として、忘れてはならないと思います。



【伝統文様：波うさぎ】

(田村嘉章『Japanese Style』技術評論社 p.72-73)

謡曲《竹生島》の一節「緑樹影沈んで魚木に登る景色あり 月海上に浮かんでは兎も波を奔るか 面白の島の景色や」に由来するとされている。月明かりに照らされた琵琶湖の湖面に白い波が立つ。何疋ものうさぎが跳びはねているように見える。

【ペガサス大会】

大会研究発表の誌上発表について

ペガサス大会実行委員会事務局長

総務担当理事 澤田 まゆみ (ピアノ)

今年の年頭から波状攻撃のように押し寄せてくるコロナ禍を受けて、夏前に予定されていた多くの学会が今年度は中止に追い込まれました。日本音楽表現学会ではこの状況を冷静に受け止めつつ、会員の発表は、研究のプライオリティを補償する視点からたとえこれまでとは異なっても可能な形態で是非実現させたいと考えて、分科会の部分の誌上発表を企画しました。幸い多くの発表予定者がこの考え方に賛同してくださり、『音楽表現学』Vol.18での誌上発表となりました。日本音楽表現学会では実音・実演を重視していますので、演奏を中心に展開する研究、ワークショップ、デモンストレーションでは若干の辞退者が出ましたが、その方たちの研究は来年度にさらに充実し、発展した形で大会で披露されることと期待しています。

ここでは誌上発表で執筆された3名の会員に感想や今後に向けてのご意見を伺いましたので、それらを掲載します。

【研究発表】

コロナ禍での誌上発表を振り返って

山本 奈央 (ピアノ)

この度は、『音楽表現学』第18号において「日本音楽表現学会・第18回ペガサス大会」での発表を掲載させて頂けたこと、心より御礼申し上げます。

コロナの渦中で、このようなかたちで発表させて頂けたことは、通常の学会発表とは異なるアプローチから原稿を書くきっかけとなり、大変勉強になりました。私にとっては学会での初めての研究発表の場でもあったため、ひと際思い入れの強い発表となりました。

誌上発表となり、まず工夫しなければならなかった点は、2ページ4,300字という限られた字数の中でどこまで端的に分かりやすく文章をまとめるかについてでした。当初は予め作成した1ページの要項を元に資料や音源などを利用して発表する形態を予想しておりましたが、今回の発表は「文章」としてどこまで書き留めるべきかを考えました。原稿には譜例や図表、音声・動画のURLを追加できる点までご考慮いただきましたが、今回は広げ過ぎてしまうと中途半端な内容になってしまうことを踏まえて譜例などは使用せず、文章のみで発表させていただきました。その代わりに【注】や【参考文献】を追加することで、より説得力の高い内容にまとめる努力を致しました。

私は『スクリャービンのピアノ・ソナタ第4番までの作風の変遷について—作品番号のない2曲のピアノ・ソナタを中心に—』について発表させていただきましたが、作品番号のない2曲の初期のソナタの分析を元に、『ソナタ第1番』から『ソナタ第4番』までの形式面、構成面、楽章間における音楽的共通要素の存在の3点に絞って言及し、作品の変遷と初期のソナタの重要性について結論づけました。誌上発表において、2ページでまとめることは読み手にとっては通常の発表よりも、より中身の見える内容になったのではないかなとも感じております。

コロナウイルスの威力はいまだに衰えを見せず、先行きの見えない不安な日々が続いておりますが、「ペガサス大会」において自身の研究を発表できる場、伝えていける場をいただけたことは本当に幸せなことだと身にしみ感じております。来年度の大会では今年度の誌上発表を活かして、スクリャービンの『ソナタ第5番』以降の作品を取り上げていきたいと考えております。来年度はコロナが収束し、皆さまの前で発表できることを心より願いながら頑張りたいと思います。

【ワークショップ】

コロナの季節での音楽

小島 エマ (声楽・音楽教育)

2020年春、世界は不気味な目に見えないものに覆われ、私たちは不思議な季節を過ごした。そして6月のペガサス大会は誌上発表となった。そのことに戸惑う余地はなかった。

コロナの季節もたらした新しい生活習慣は、決して悪いことばかりではなかった。しかし残念ながら、音楽をめぐる環境にはそぐわないことが多く、特に「歌う」という行為は(ライブハウスから合唱活動までジャンル・規模の大小を問わず)、最も感染リスクの高い行為の一つとされ、2020年11月現在に至る。この機会に何を未来に繋げたいかを振り返ってみたい。

2020年春、私の関係する合唱団やレッスンは全て活動休止、舞台もキャンセルとなった。ワールドワイドに活躍する指揮者である友人も同様だったようで、パリ別宅でロックダウンされていた。SNS上で連絡を取り合い、ZOOM上でオペラアリアを弾き歌いし、アドヴァイスをもらうという再会を果たした。内にこもりつつむしろ遠く離れた友人と繋がった。

一方「リアル」で声を合わせる行為には危険が伴う。「リモート」では、日頃の練習そのままを代替できないので、リモートではリモートに合った活動が必要だった。ペガサス大会のワークショップで私が計画していたことは、伴奏不要・音量不問、声と声で応答的に聴きあい、歌いあい、即興・創作につなげるワークであった。そのワークをアマチュア合唱団メンバーにオンライン・1on1 レスナーとなってもらい、実践したところ、オンライン・1on1 にフィットするものだった(詳細については誌上発表させていただくことになるので、お読みいただければ幸いです)。

さて、音楽ワークショップの代替は必ずしもオンラインワークだけではない。「脳内で補完しながら音を聴く・

楽譜を読む行為」は、本を読むことにとっても似ている。本を読むことは、単に文字を言葉に変換することではなく、「少し知っていること」を手がかりに脳内で補完することによって拡がりを持つ。誌上発表となったペガサス大会で皆様の研究成果を読み、脳内でぜひ補完しながら音を紡がせたい。

2020年、内へ内へと自分に向きあい蓄えたことは、2021年、また外へ外へと「表現」する際に、より大きな拡がりをもたらしてくれるものになると信じている。

【ポスター発表】

コロナ禍がもたらした「LIVE・生」への思い

新保 江美（フルート）

初めてのポスター発表となるペガサス大会の私の題目は、「オルセー美術館展におけるファイフ復元事業について—少年の笛ファイフよ！よみがえれ—」でした。現在、研究対象としている教育用よこ笛ファイフと同名のE. マネ《笛を吹く少年》に描かれている笛「ファイフ」の再生についてです。本題材を選んだのは、ポスター発表の利点が存分に発揮できると考えたからです。

ポスター発表は口頭発表よりも聴衆との距離が近く、互いにコミュニケーションを取り、相互理解を深め、新たな視点を得ることができます。本発表では、実際の復元楽器を手に取り、音を聴き、より近く、より深く、五感で伝えることに重点を置いていました。しかし、発表の準備をはじめ、発表当日に復元ファイフの現物を借りる手筈を整えたところ、新型コロナウイルス感染症は世界中を駆け巡り、私たちの生活を一変させました。そしてペガサス大会の発表は、誌面代替となりました。

ポスターと誌面の発表では、同じ紙媒体でも思い描く姿に違いがあり、戸惑いを覚えました。限られた誌面の中で、守るべきもの、譲るべきものの選択に苦慮しました。また一方通行の誌面で、この楽器を立体的に感じて頂けるだろうか、復元までの道のりを伝えられるだろうかと思いを巡らせました。その中で唯一、QRコードを用いた音の再生ができました。マネの絵画から飛び出す、少年の笛の音色をお聴き下されば幸いです。

コロナ禍は、人々との触れ合いに変化をもたらしました。今でも生徒とのレッスンは、アクリル板やフィルムで仕切られています。それでも、小さな画面越しの対面より、生身で語り合い、生音で共に奏で、五感を共有することは、人間の自然な姿なのだと思います。音楽は、絶えることなく人類と共にあり続けています。その音楽で繋がるLIVE・生(なま)の結びつきは、人間のLIVE・^{せい}生の源となっているのではないのでしょうか。このコロナ禍で強く思い、感じたことです。

新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束と皆様のご健康、そして来年こそ、高崎でお会いできますことを心より願っております。最後になりましたが、突然の疫禍で先行き不透明な中、いち早くご対応下さり、貴重な発表の機会をお守り下さった関係者の皆様、大会実行委員の皆様には厚く御礼申し上げます。



音楽と Black Lives Matter

高沢 学 (ピアノ)

ますます秋も深まって来ましたが皆様お元気で過ごしてでしょうか。このニューズレターが届く頃には私が住むアメリカ合衆国では次期大統領が選出されているはずです。その時この国がどうなっているのやら、全く想像が付きません。私は高校生の時に日本を離れ、人生の大半をこの国で過ごしていますが、昨今のアメリカは今までに経験したことのないような未曾有の変化と人々の不安、不満が蔓延しているように感じます。一番根本的なところから何か崩れていっているような異様な雰囲気、日々暗澹たる思いです。

今年5月にアメリカ中西部のミネアポリス市で起こったジョージ・フロイドさんの死に関するニュースが、この国の根深い人種問題を世界中に見せつける結果となりました。その反応からか、偏見からくる人間同士の争いなどについて新たに反省しようとする動きが私の身の回りにも多々見られるようになってきました。今回はその例の一つとして、メリーランド州立大学の音楽学部長が掲げるIDEAというコンセプトをご紹介しますと思います。

これは inclusion, diversity, equity, access の4つの言葉の頭文字をとったもので、人種、国籍、性別、性的指向、身体的または経済的格差などに根付いた意識的、そして無意識的な偏見をできるだけ無くし、皆が平等にかつ公平に日々の生活ができることを目指す狙いがあります。IDEAに感銘を受けた同僚の働きかけにより、私が勤務するロードアイランド州立大学の音楽科でもIDEA委員会が発足しました。在学生や職員にこのIDEAの考えを広めると同時に、一人一人が安心して勉学に励むことができる環境を確保できることを目標とした話し合いや活動をしています。身近な例としては、ジェンダーフリーのトイレの設置や、階段でしかいくことの出来なかった講義室の一階への移設などです。この委員会の特徴は、教職員、事務員そして学生から成り立っていることで、改良すべき問題点をいろいろな視点から対処しようという試みが組み込まれています。しかし、IDEAの基盤になる考え方も本校の委員会も、実はミネアポリスの事件より2年近く前には既に存在しており、こうした考えはここ数年身近に感じられるようになっていた社会問題へ

の反応として始まっていました。今回のジョージ・フロイドさんの事件の後も類似の事件が続いた結果、更に他人事ではなくなり、運動が活発になったのだと思います。

これまで当然とされていた事が多方面から再検討され、今まで異議を唱える声を持たなかった人達の視点に寄り添おうとする動きは、実は生活面だけでなく学問の面でも議論されるようになってきています。それは音楽においても例外ではありません。ここ20年程で女流作曲家を専門とする学者や演奏家も増え、少しずつではありますが音楽史などの授業や演奏会でも「dead white men」以外の音楽が取り上げられる機会が頻繁に見られるようになってきました。以前であれば、黒人が作った音楽に関してはほとんどがジャズに限られ、クラシックはまだまだヨーロッパからの白人の音楽というイメージが強かったのですが、最近それにも変化が起こっています。様々な不条理を目の当たりにし、不穏な社会の中で真に自分を見つめ、音楽の在り方などについて考え直した教育者の間では、18、19世紀までに完成された主に今の西ヨーロッパで栄えた音楽を最高の芸術とし、あたかも上から目線でそれを基盤にした研究・教育を行うことに対して疑問を抱く人が出てきています。和声学や、授業で扱う音楽作品に至るまで既成概念に捉われ過ぎているかと警鐘を鳴らす人もいるほどです。この傾向は先月のIDEA委員会でも議題に上り、今後ロードアイランド州立大学での音楽史・音楽理論の教え方やカリキュラムが変わって行くだろうという確実な手応えが既にあります。

クラシック音楽もまた、アメリカ人にとってはやはり外国から来た音楽ですから、ヨーロッパ音楽だけがクラシック音楽でないという見方は、ある意味理にかなっているのかもしれませんが。また、ジャズ以外のアメリカ音楽というものが学問として今まで疎かにされていたという反省の念もある様に思われます。そこに来てこの「Black Lives Matter」と呼ばれる運動で黒人作曲家に対する関心が一気に高まりました。もちろんこういった人達にとって業績を残せる様な環境にいた人はごく稀なケースで、才能があっても世間に認めてもらうためのチャン

スを与えられず、またそれ以前に教育すら受けることもできず無名のまま消えて行った音楽家や愛好家がたくさんいたことでしょう。それを思うと、どれ程の素晴らしい音楽が日の目を見る前に処分されてしまったかと居ても立っても居られない様な残念な気持ちになってしまいます。しかし、幸運にも沢山の資料が全国の図書館や資料館などに眠っていることも確かで、少しずつアフリカ系アメリカ人の作曲家や演奏家の作品に触れる機会が多くなってきたことを嬉しく思います。

私自身もこの機会にピアノ科の学生達一人一人に黒人作曲家のピアノ曲を課題として与え、ヨーロッパの古典とはまた違った趣の作品と一緒に学んでいます。様々な

状況下で、偏見の対象になり公正なる扱いを阻まれたにも関わらず、後世に残る業績を残したアメリカの音楽家達の研究をこれからも続けていきたいと思っています。

いろいろな面で不安定な今日この頃ですが、こういう時こそ日々の普通の生活というもののありがたさを噛みしめている毎日です。今日も薄曇りの空から時々覗く太陽の温かみを背中に受け、芝生の上に何重にも重なった落ち葉を集めながら秋が深まってきたのを身体中に感じた日曜日の午後でした。それでは皆様も健康にはくれぐれもお気をつけになってご活躍下さい。



【写真】 University of Rhode Island (USA) キャンパス4景

新入会員紹介

個人情報につき削除しています。

日本音楽表現学会後援コンサート等情報

- 河原千尋さん 「河原千尋ピアノコンサート」
日 時：2020年10月17日（土）14時開演
会 場：松明堂音楽ホール
料 金：3,000円
演奏者名：河原千尋（ピアノ）
主な曲目：J.S. バッハ「パルティータ第5番」、シューベルト「即興曲」D899、滝廉太郎「憾
他
問 合 せ：河原千尋
- 鶴澤友球さん 「鶴澤友球会主催 第1回浄るり研鑽会」
日 時：2020年10月25日（日）10:30～12:40
会 場：寿司一（淡路市志筑1193-1）
料 金：観覧無料（一般観客席20席 予約優先・先着順）
演奏者名：鶴澤友球会会員
演 目：『傾城阿波の鳴門』八段目〈巡礼歌の段〉、『絵本太功記』十段目〈尼ヶ崎の段〉、
『仮名手本忠臣蔵』三段目〈殿中刃傷の段〉、『仮名手本忠臣蔵』六段目〈身売りの段〉
主催後援：鶴澤友球会
問 合 せ：Fax. 0799-62-5805、e-mail tsuruzawa-tomoju-gidayuu@au.com、
Facebook・Instagram「鶴澤友球」メッセージ
- 宮田知絵さん **The Afternoon of the Early & Baroque Music 西洋古楽・バロック音楽の午後**
～麗しき音楽の源をたどる～
日 時：2020年11月2日（月）14:00開演
会 場：ノワ・アコルデ音楽アートサロン
料 金：3,000円
演奏者名：宮田知絵（Sop.）、白井真奈（Cem.）、上田牧子（Gmb.）
主な曲目：G. カッチーニ「新音楽」より「Amor,io parto」、J. ダウランド作品集より「Lasso
vita mia」、J. デュフリ La Pothoüin/ W. シェイクスピアによる英国古謡、他
主催後援：大阪音楽大学〈幸楽会〉、関西楽理研究会、京都音楽家クラブ
問 合 せ：kornblumen_chie@i.softbank.jp
- 鶴澤友球さん **鶴澤友球 浄瑠璃ライブ&初めて浄瑠璃！体験教室**
日 時：2020年11月15日 10:30～16:30（3部制）
会 場：多可町加美コミュニティプラザ
料 金：ライブ一般1,500円・高校生以下500円（当日500円増）／語り体験2,000円
三味線体験3,000円
演奏者名：鶴澤友球
演 目：『絵本太功記』十段目〈尼ヶ崎の段〉
主催後援：主催／鶴澤友球・鶴澤友球会 後援／多可町教育委員会
問 合 せ：鶴澤友球会事務局 Fax／0799-62-5805
e-mail tsuruzawa-tomoju-gidayuu@au.com
Facebook・Messenger・Instagram メッセージ

- 海津幸子さん **コンサート ブラームス ピアノトリオ 第1番**
 日 時：2020年11月22日(日)13時30分開場 14時00分開演
 会 場：かなつくホール
 料 金：4,000円(小人1,000円)
 演奏者名：吉岡麻貴子(ヴァイオリン)、三宅依子(チェロ)、海津幸子(ピアノ)
 主な曲目：ベートーヴェン チェロソナタ第3番イ長調作品69、ブラームス ピアノ三重奏曲第1番ロ長調作品8他
 主催後援：KAIZOO project
- 藤原嘉文さん **藤原嘉文 作曲個展～室内楽作品演奏会**
 日 時：2020年12月23日(水)19:00開演
 会 場：YCC 県民文化ホール(甲府)小ホール
 料 金：入場無料 入場予定の方は規定により、事前に fujiwara@yamanashi.ac.jp までご連絡ください。
 演奏者名：藤原嘉文、大内邦靖、池山洋子、市川紗絵 他
 主な曲目：藤原嘉文作曲《西風の記憶》トロンボーンとピアノのための、《舞》3本のフルートのための、《Sound Mosaic IV》チェロ独奏のための、《Interplay》ピアノ4手連弾のための 他
 主 催：藤原嘉文作曲個展実行委員会 (備考：科学研究費補助金助成公演)
 * 700人収容のところ300人以下での開催です。
- 近藤茂之さん **近藤茂之ピアノリサイタル～イタリアの思い出 F.リストの作品から～**
 日 時：2021年2月20日(土)14時30分開演
 会 場：カワイ名古屋2階 コンサートサロン「ブルー」
 料 金：2000円(大学生以下1,500円)
 演奏者名：近藤茂之(ピアノ)
 主な曲目：F.リスト作曲《巡礼の年第2年「イタリア」より》〈第1番婚礼〉、〈第5番ペトラルカのソネット第104番〉、〈第7番「ダンテを読んで～ソナタ風幻想曲〉、他
 後 援：愛知県立芸術大学音楽学部同窓会、株式会社河合楽器製作所
- 高旗健次さん **トリオ クライネ フロイデ 室内楽の午後 Vol.2**
 日 時：2021年4月23日(土)昼公演14:00開演(13:30開場)
 夜公演18:30開演(18:00開場)
 会 場：豊中市立文化芸術センター小ホール
 (豊中市曾根東町3-7-2阪急宝塚線曾根駅より東へ約300メートル・徒歩5分)
 料 金：一般3,000円、学生1,000円(全席自由席)
 * 新型コロナウイルス感染予防対策のため、チケットは全て予約販売のみ
 * 未就学児の入場はご遠慮ください。
 演奏者名：高旗健次(Vn.)、後藤敏子(Vc.)、山畑誠(Pf.)
 曲 目：L. v. ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲第1番 変ホ長調 作品1、P. I. チャイコフスキー：ピアノ三重奏曲 イ短調 作品50「偉大な芸術家の思い出」
 主 催：ピアノトリオの午後実行委員会
 後 援：大阪教育大学教育協働学科芸術表現部門(音楽)、大阪音楽大学《幸楽会》、
 島大学大学院人間社会科学部研究科音楽文化教育学領域、日岡山フィルハーモニック管弦楽団(予定)
 問 合 せ：ピアノトリオの午後実行委員会
 Tel:0798-77-5443 E-Mail:vcbinko@yahoo.co.jp

事務局からの重要なお知らせとお願い

1. 『会員名簿 2020 年度版』発行

『会員名簿 2020 年度版』の発行に際して会員諸氏のご協力をありがとうございました。名簿は各種の学会活動の基礎となる重要な資料ですが、これまでに情報量に制限がかかっています。コロナ禍によって人間の心が内向きになる、あるいは世情の不安定の影響を受けてか、プライバシーに関する警戒が強いようです。掲載事項についてはみなさんの希望を反映していますので情報は人によってかなり差があります。音楽活動や研究活動交流のために情報が不十分な場合には、必要事項と理由をお記しの上、事務局にお問い合わせください。

2. 『音楽表現論文執筆のしおり』発行は3月末です。

『音楽表現論文執筆のしおり 2020 年増補版』は『会員名簿』と同時にお届けする予定でした。しかし、諸般の事情で進行が遅れ、11 月末には発行にいたりませんでした。2021 年 3 月末には完成する予定ですので、今暫くお待ち下さい。来年度の『音楽表現学』Vol.20 の投稿（5 月 15 日（土）〆切）の際には是非ご参考にしてください。増補部分は投稿者に留意していただきたい注意事項等を、論文査読の視点から記載する予定です。

3. 年会費の納入について

(1) 年会費の納入期間：まだ納入されていない方は、速やかに手続きをお願いします。

学会は皆様方の年会費で運営されています。期限内に納入がなければ、発表申し込みや原稿投稿ができません。また、3 年滞納された方は、総会での審議事項「年会費滞納による除名対象者」になります。無意識滞納にご注意いただきますと同時に、対策の一助として、納入後はただちに、「振替払込請求書兼受領証」（ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」）に、納入年度をメモの上、保存されることをお勧めいたします。年会費をまだ納入されていない方はお急ぎください。

(2) 振込方法：年会費納入に新しい方法を導入！

・年会費納入方法の合理化のために、今年度から「ゆ

ちょダイレクト等ネットバンキング」に入金できる方法も導入しました。ネットやコンビニ等を利用して、銀行や郵便局に行かなくても納入が可能です。年度当初の速やかな納入をお願いします。

・年会費納入方法：

A) 郵便局からの振込（振込用紙利用）

（記号—番号）01370 = 6 = 78225

加入者名：日本音楽表現学会

B) 他行等からの振込（店名—口座番号）

店名 ^{いちさんきゅう} 一三九（139）店

預金種目：当座

口座番号：0078225

なお、2020 年度未納の方には、ゆうちょ銀行青色の「払込取扱票」を同封しておりますので、ご自分の納入状況をご確認下さい。

(3) 領収書・請求書の発行：必要な方は事務局へ問い合わせを

領収書は原則として発行いたしません。「振替払込請求書兼受領証」（ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」）を領収書として保管ください。

大学研究費での引き落とし等、請求書・領収書の必要な方は事務局へお問い合わせください。財務局へ取次ぎ、発行手続きをいたします。

(4) 年会費減免措置について：自然災害等の被災による減免措置の制度

学会では、地震や洪水等、自然災害の被災によって年会費納入が困難な会員の年会費を減免する制度があります。必要な方は、HP から以下の書式をダウンロードし、申請ください。理事会に諮り、減免手続きをいたします。

4. 住所等、会員情報の変更：HP フォームにて速やかにお知らせを

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html>

学会からの送付物は事務局本部で理事とスタッフが手作業で、お届けいただいた連絡先にお送りしています。しかしながら、転居先不明等で返却さ

れる封筒が少なからず存在します。そのたびに所属先や、時には入会時の「推薦者」に問い合わせ再送しています。このような手間と経費を削減するために、みなさまのご協力を切にお願い申し上げます。

5. 学会会員のサポート制度

(1) 機関誌『音楽表現学』への投稿

原稿の投稿には、会員資格と当該年度までの会費を完納していることが必要条件です。手続きには2～3週間かかります。その点ご確認ください。

『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。

投稿〆切は5月15日(土)です。

(2) 大会での発表

本学会ならではの生の音楽表現を含めた研究発表の機会をご利用ください。〆切期日は厳守ですので各自で明記してください。

大会発表申込〆切は、2月15日(月)です。

6. 会員への情報公開

(1) ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見など、ご寄稿ください。

研究ノート、随想などを図表等を含めて刷り上がり1頁以内でお送りください。

(2) コンサート等の後援・協賛

本学会ホームページのリンクから〔コンサート等後援／協賛申請フォーム〕にて事務局へ申請してください。確認後、事務局より「後援受理書」をお送りしますので、チラシやプログラムに学会名を掲載ください。また、HP及びニュースレターにも案内を掲載させていただきます。なお出演者氏名の掲載は会員のみとなります。

(3) 新刊案内・CD/DVD リリース

著者名(会員)、書名(ISBN)、出版社、価格(税込)、購入方法なども含めてお知らせください。ニュースレターとHPに掲載します。

(4) その他：隣接領域の研究会等情報などもお寄せください。

投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

7. 学会発刊の書籍の販売について

(1) 『音楽表現学』バックナンバー購入方法：

メール等で事務局までお申し込みください。

Vol.	会員価格(1部)	一般価格(1部)
1～3	2,500円+送料	3,000円+送料
4～14	3,000円+送料	3,500円+送料
15以降	2,500円+送料	3,000円+送料

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。

(2) 『音楽表現学のフィールド2』好評発売中

会員価格3,000円(税込・送料込)にて購入いただけます。

購入申込：メールで事務局までお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

送金：『フィールド2』に専用の払込取扱票を同封します。

加入者：日本音楽表現学会

口座：01370-6-78225

[購入申込書]

『音楽表現学のフィールド2』の購入を申し込みます。
氏名：_____
部数：_____
送付先：_____
連絡用E-mail：_____

8. 入会手続きについて

- ・ 入会申し込みは随時受け付けます。入会申込書は以下のフォーム、またはHPからフォームをダウンロードしてお申し込みください。
- ・ 『音楽表現学』への投稿や大会での発表の申込みには本会会員であることが条件です。手続きには時間がかかります。次年度の大会発表希望者、『音楽表現学』投稿希望者は、2020年12月15日までに会員資格を取得してください。
- ・ 学会からの連絡(印刷物お届けなど)は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。
- ・ お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。

9. 退会手続きについて

退会には以下の3点の手続きが必要です。

- ① 「退会願」をHPからダウンロードし、事務局に提出
- ② その年度までの年会費完納
- ③ 理事会の承認

「退会願」を提出しないで、年会費を先延ばしにしていると「会則第8条」によって除名処分になります。仕事や私的な理由で残念ながら学会員を「これ以上続けることができない」と判断された場合には、必要な手続きを行ってください。

10. 各種手続きの書式とフォーム一覧

1) 「年会費減免願」書式：

被災による年会費減免願
年 月 日
日本音楽表現学会 会長殿
このたび、(〇〇地震)被災により、(〇〇〇〇年度)年会費の納入免除をお願いいたしたく、減免願を提出いたします。
なお、(□□□□)年度分までの会費は納入済みですのでご確認をお願いいたします。
氏 名： _____
現在の連絡先： _____
連絡先電話番号： _____
e-mail アドレス： _____
減免申請の理由 (具体的に納付困難の理由をお記しください。)

2) 「住所等変更届」書式

住所等変更届
以下のように住所等を変更しましたので届けます。
年 月 日
氏名(ふりがな)： _____
<input type="checkbox"/> 会員種別：学生会員→正会員
<input type="checkbox"/> 所 属： _____ (学生は学年も記して下さい。)
<input type="checkbox"/> 自宅住所： 〒 _____
<input type="checkbox"/> 連絡先：(上記と異なる場合) 〒 _____
<input type="checkbox"/> 連絡先 Tel. あれば携帯 Tel： _____
<input type="checkbox"/> e-mail：(半角) _____

3) 「コンサート等後援願フォーム」

コンサート等後援願
日本音楽表現学会の後援をお願いします。
年 月 日
氏 名： _____
所 属： _____
コンサート等の名称： _____
コンサート等の趣旨： _____
主な内容： _____
期 日： _____
会 場： _____
出演者(会員)： _____
連絡先： _____

4) 「入会申込書フォーム」

入 会 申 込 書
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。
年 月 日
氏名(ふりがな)： _____
専門分野： _____
会員種別：該当項目に✓を記して下さい。 <input type="checkbox"/> 正会員 <input type="checkbox"/> 学生会員(学部学生のみ)
所 属： _____ (学生は学年も記して下さい。)
自宅住所： 〒 _____
連絡先：(上記と異なる場合) 〒 _____
連絡先 Tel. あれば携帯 Tel： _____
e-mail：(半角) _____
推薦者名(学会員・1名) _____ 学会員に推薦者がいない場合には、事務局 にご相談ください。
学会に期待されること。ご意見等：
[備考] 学会からの連絡(印刷物お届けなど)は、 ご記入いただいた「連絡先」に送ります。お届け いただいた上記の情報は、事務局で厳重に管理し、 学会事務以外の使用目的には供しません。

5) 「退会願フォーム」

退 会 願
年 月 日
日本音楽表現学会 会長 小西 潤子 様
このたび、日本音楽表現学会を退会したいので「退 会願」を提出いたします。
なお、今年度分までの会費は納入済みですのでご 確認をお願いいたします。
氏 名： _____
連絡先： _____
連絡先 Tel.： _____
e-mail： _____
退会理由： _____

第19回（天翔るペガサス）大会発表募集

第19回大会は、2021年6月19日（土）-20日（日）に新島学園短期大学において開催されます。つきましては、会員のみなさまの発表を以下のとおり募集します。

ところで第18回大会では増加する発表申込に呼応して実験的にポスター発表を募ることにしました。ポスター発表の長所は、自分の興味・関心に応じて訪れる参加者と、膝を交えて互いに研究内容を深め合うことができる点です。ポスター発表では発表者は指定された時間帯（90分の予定）に自分の発表内容を表すサイズ765mm×1085mm程度（全紙）のポスターを掲示します。

しかしながら、第18回大会は拡大するコロナ禍によって変則的な形態となり、『音楽表現学』Vol.18上の「誌上発表」となりました。誌上発表では「研究発表」「共同研究」「ワークショップ」「デモンストレーション」「ポスター発表」の枠を取り払って、発表希望を募りました。各発表は2頁で文字や図像によって研究内容が公表されています。視聴覚が必要な発表内容についてはURLのアドレスを記載して研究内容に対する関心喚起が図られています。

第19回大会は通常の対面による大会の実現を目指しています。会員諸氏には、日頃のご研究をお持ちよりいただき、ご出席のみなさまと共有、意見交換をしませんか。なお、コロナ禍の状況によっては発表形態の変更をせざるをえなくなる可能性も無きしあらずです。そのような場合には決定次第お知らせします。以上をお含みの上、多数のお申し込みをお待ちしています。

～ ～ ～ ～ ～ 記 ～ ～ ～ ～ ～

発表形態と時間：

研究発表	会員個人による研究発表 30分と質疑 10分	40分
共同研究	2人以上の共同による研究発表と質疑	内容により 40分または 85分
ワークショップ	実践体験を含むプレゼンテーションと質疑	内容により 40分または 85分
デモンストレーション	VTR 作品上映などと質疑	内容により 40分または 85分
ポスター発表	研究発表あるいは共同研究の掲示と参加者との討論	90分枠の中で

発表申込：発表タイトルと発表形態および200～400字の発表要旨を下記の様式にしたがってメールでお申し込みください。共同研究の場合は必ず筆頭発表者が申し込みを行ってください。なお、筆頭発表は学会からの委嘱を除き、一人1件です。

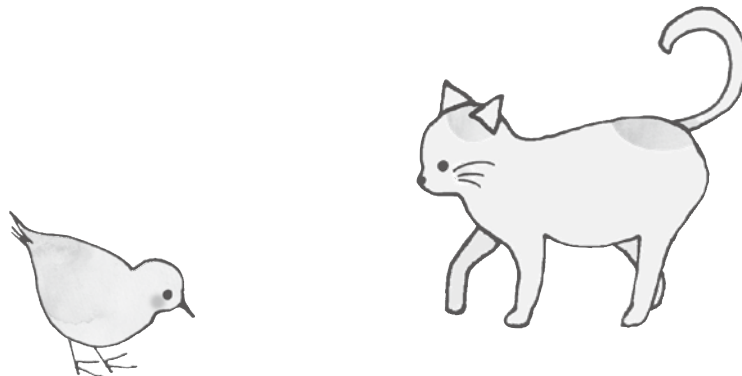
発表申込資格：申込みの時点で2020年度会費までを完納している会員

※ 切：2021年2月15日（月）

申 込 先：学会事務局 music-expression@music-expression.sakura.ne.jp 宛。

* 『大会要項』原稿についての詳細は、申込受付後に申込者にお知らせします。

申込様式：次頁に掲載



天翔るペガサス大会発表申込様式

日本音楽表現学会第 19 回大会に発表を申し込みます。

2020 年度までの年会費は納入済です。(冒頭の□に納入済の「✓」を記入してください)

1. 氏 名 _____

2. 連絡先住所 〒 _____

電 話 _____

E-mail _____

3. 発表形態と題目

(1) 発表形態 (冒頭の□の該当する個所にを記入してください。)

ア) 研究発表

イ - ①) 共同研究 (40 分)

イ - ②) 共同研究 (85 分)

(共同研究者氏名 _____)

ウ - ①) ワークショップ (40 分)

ウ - ②) ワークショップ (85 分)

エ - ①) デモンストレーション (40 分)

エ - ②) デモンストレーション (85 分)

オ - ①) ポスター発表 (単独研究)

オ - ②) ポスター発表 (共同研究)

(2) 題目 _____

4. 発表要旨 (200 ~ 400 字)

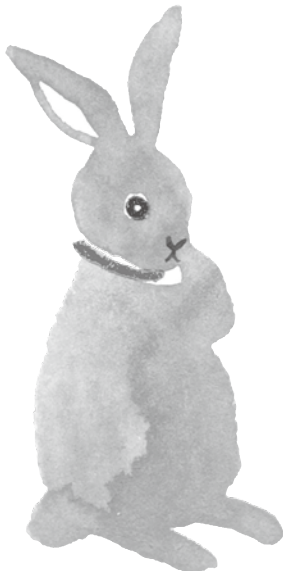
5. 分科会会場設置使用機器 (使用する機器の記号を記載してください)

ア) ピアノ

イ) プロジェクタとスクリーン

ウ) CD

エ) DVD



日本音楽表現学会第19回 ^{天翔る}(ペガサス)大会

会 場：新島学園短期大学（群馬県高崎市昭和町 53）
 会 期：2021年6月19日（土）・20日（日）

基調講演 神部 智（茨城大学）『神話と音楽』（仮）
 レクチャーコンサート 『神話に基づく音楽』
 ギリシャ神話、北欧神話、日本神話等々



大会開催に向けての主な日程：以下の通りです。

- ・発表申込み締切は2月15日（月）です。
- ・プログラム、日程、アクセスなどの詳細は3月31日発行のNL-2020-No.3でお知らせします。NLには4頁チラシも同封する予定です。
- ・参加申込期間は4月1日（木）から5月26日（水）の予定です。コロナの影響を受ける可能性があります。詳細は3月31日発行のNL2020-No.3でお知らせします。

実行委員会

委員長：吉田 秀文（群馬大学）
 事務局長：澤田まゆみ（新島学園短期大学）
 委員：瓜生 郷子（新島学園短期大学）
 金山茉莉花（奈良保育学院）
 久保田和子（新島学園短期大学）
 渋谷ナタリ（東京芸術大学）
 高木麻衣子（東京福祉大学）
 林 千草（育英短期大学）
 原 久美子（東京福祉大学）

会場への主なアクセス：

- ① 出発/中継地：首都圏方面、北陸方面共に
 JR 上越・北陸新幹線「高崎」下車
- ② JR「高崎」からJR信越本線「北高崎駅」下車
- ③ 北高崎駅北口から 徒歩約3分

詳しくは「第19回（ペガサス）大会チラシ」でお知らせします。

2020年度役員・委員等一覧

会 長：小西 潤子	著作権ワーキング：	参与：	中村 隆夫
副 会 長：山名 敏之 藤原 嘉文	代表 福本 康之		安田 香
事 務 局 長：小野 亮祐	委員 近藤 晶子	会長諮問会議：	安藤 政輝
財 務 局 長：渡会 純一	酒井 勇也		佐々木正利
理 事：杉江 淑子（事務局担当）	高橋 豊		後藤 丹
上山 典子（財務局担当）	中村 滋延	参事：（事務局）	近藤 晶子
澤田まゆみ（総務担当）	選挙管理委員会：		中村 公俊
寺内 大輔（総務担当）	委員長 樫下 達也		長山 弘
編集委員会：	委員 大澤 智恵		似内裕美子
委員長 水戸 博道	田邊健太郎		松井 萌
副委員長 渡辺 修身	監事：	デザイン室長：	奥 忍
委員 大竹 紀子 豊田 典子	海津 幸子		（スタッフ）：海野万希子
中 磯子 長谷川正規	小川 有紀		
三島 郁 宮本賢二郎			

編 集 後 記

まずは、寄稿者の皆様にお礼を申し上げたいと思います。巻頭言を執筆してくださった杉江淑子さんは、音楽という営みの大切さを、実感をこめて語ってくださいました。海外だよりをお寄せくださった高沢学さんの原稿では、社会的出来事や社会の変化が私たちの音楽とのかかわりに及ぼす影響について、アメリカ在住者ならではの実感が生き生きと伝わってきます。さらに、山本奈央さん、小島エマさん、新保江美さんには、本学会初の誌上発表に臨んだ際のお気持ちや、コロナ禍の状況に対する思いを綴っていただきました。困難な状況におけるそれぞれの思いがしっかりと伝わってきました。寄稿者の皆様、ありがとうございました。

今号では、第19回の大会についてもご案内させていただきました。Covid-19の状況が予見できないなか、不確定な点はあるものの、スタッフ一同鋭意準備中です。会員の皆様におかれましては、積極的なご発表応募をお願いいたします。

（寺内 大輔）